Japan Quality Award
2016 Winner

CSR報告書

2020

ゼノアック
ZENOAQ

目　次

P1.　目次

P2.　トップメッセージ
代表取締役社長　福井寿一

P3.　会社概要/経営理念/考え方

P6.　製品紹介
ゼノアックを代表する主要製品11種

P7.　お客様に対して
お客様満足度向上(CS)委員会/高品質な製品・サービスの提供

P11.　社員に対して
人事データ/社員満足度向上(ES)委員会/研修・教育制度/プロフェッショナル資格制度/業績報告会と社内表彰/
ダイバーシティの推進/ワークライフバランスと各種制度/自己申告制度/公正な評価/健康管理/福利厚生

P17.　コンプライアンス
コンプライアンス教育/薬事コンプライアンス委員会/GMP、三極対応GMP/GLP/品質保証と安全管理の体制/
動物実験と動物倫理/公的研究費の取り扱いについて/防疫管理/広告・表示の適正化/交通事故削減運動/
内部通報窓口の運用/情報セキュリティ/個人情報保護/ビジネスパートナーとの関係

P23.　環境
省エネルギー委員会/エコ・環境推進チームの設置と活動/エコカーの導入促進/環境配慮型エネルギーへの転換/
脱プラスチックの推進/電子化推進による環境対応/リサイクル活動/地球環境の美化活動/日常のエコ活動/環境法制への対応

P27.　社会貢献
お客様に対して/動物と飼い主に対して/地域や社会に対して/児童、生徒、学生に対して/自然災害への被災地支援

P35.　組織統治
コーポレートガバナンス/CSRの考え方/コンプライアンス行動規準/経営品質向上(MQ)活動/リスクマネジメント/
危機管理(RA)委員会/事業継続計画(BCP)

編集方針

■ このレポートについて

「ZENOAQ CSR報告書2020」は、日本全薬工業株式会社（以下ゼノアック）のCSR（企業の社会的責任）活動の概要をステークホルダーの皆様にご報告するために発行しています。

（本編はCSRの国際規格であるISO26000の中核主題に準じた章構成としています。）

■ 報告期間

主に2019年度（2019年4月1日~2020年3月31日）の活動を記載していますが、この期間を含む継続的な取り組み等についても取り上げています。

※®は当社もしくは所有各社の登録商標です。
※ZENOAQ(ゼノアック)は日本全薬工業株式会社の企業ブランドです。

■ 報告範囲

ゼノアックグループは共通の価値観と経営理念で活動していますが、本レポートの報告内容は、一部を除き日本全薬工業（株）の取り組みだけを記載しています。

■ 発行／2020年12月

■ CSR報告書に関するお問合せ先

日本全薬工業株式会社　統括本部総務部広報室

〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1
TEL : 024-945-3531　FAX : 024-945-2394
Mail : zenoaq_pr@zenoaq.jp

トップメッセージ

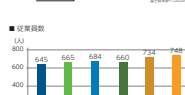
ありがとうございます。

2020年は、昨年末に発生した新型コロナウイルスCOVID-19の感染拡大が世界中に影響を受けました。現在でもその勢いは未だとどまることを知りません。この期間、多くの人命が奪われ、医療現場は逼迫し、経済活動にも大きな影響が出てきます。一方私たちが従事する動物用医薬品業界に目を向けますと、国内外の主要メーカーに対する影響はいうのところ限定的で、当社も含め、前年から引き続き成長軌道を維持しております。ゼノアックは、安心・安全な畜産物の流通、家族とペットとの絆を守ることなど、私たちの製品・サービスを通じて動物の価値を高めることに努力して参りました。今般のコロナ禍を経験し、いかなる状況下においても私たちはしっかりと事業を継続し、社会に貢献し続けなければならないという想いを新たに致しました。

2020年はゼノアックにとって、中期経営計画「2020プラン」の最終年度に当たります。私たちは創業以来培ってきた社風、経験を大切にしながら、過去の延長線上延長上ではなく、組織運営の点における会社の「質的転換」を目指し、常に挑戦者の心を忘れず経営課題に取り組んでおります。私たちは動物用医薬品メーカーであり、お客様にとって有用な、独自性のある製品をお届けする事が最大のミッションです。その目標に向かい、世界に通用する医薬品の開発は国内外の多くのパートナーと連携を取りながら、着実に歩みを進めています。また、お客様のご要望に的確にお応えできる営業・生産・物流体制の構築と、それを可能にするための時代に即した社内制度の整備も進めています。また、製品勉強会、経営セミナー、Webマガジン等を通じた情報発信にも力を入れることにより、畜産・獣医療業界全体の発展にも寄与させていただきたい所存です。

コロナ禍の状況において、社会がまさに質的転換を迫えている中、ゼノアックは今後も変化に対応しながら、新しい価値の創造を続けていきます。引き続き、ご支援の程よろしくお願い申しあげます。

代表取締役社長 福井（ふくい） 寿一（としかず）



会社概要

企業概要

2020年4月1日現在

名称	日本全薬工業株式会社
所在地	〒963-0196 福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1 TEL.024-945-2300 (代表) FAX.024-945-2394
設立	1946年 (昭和21年) 5月
資本金	1億7,000万円
代表者	代表取締役会長　福井　邦顕 代表取締役社長　福井　寿一
事業内容	動物用医薬品及び医療機器等の研究開発・製造・輸出入・販売、バイオ原薬受託製造
従業員数	748名(2020年4月1日現在)
売上高	391億円 (2019年度)
主な販売先	畜産関係団体、家畜診療所、小動物病院、畜産農家・畜産農場、海外販売代理店
主な提携先 （五十音順）	アイデックス ラボラトリーズ(株)、アリスタヘルスアンドニュートリションサイエンス(株)、石原産業(株)、(株)牛越生理学研究所、MSDアニマルヘルス(株)、エランコジャパン(株)、オカダインダストリ(株)、クリングルファーマ(株)、ケミン・ジャパン(株)、(株)サン・メディカ、獣医医療開発(株)、ジンプロアニマルニュートリション (ジャパン) ,インク.、スペシャ ル ニュートリエンツ、住化エンバイロメンタルサイエンス(株)、セバ・ジャパン(株)、大扇産業(株)、DSM(株)、デラバル(株)、東洋電化工業(株)、動物アレルギー検査(株)、日本農薬(株)、ビルバック、ファルミナペットフーズ・ジャパン(株)、ベーリンガーインゲルハイム　アニマルヘルス ジャパン(株)
主要取引銀行	東邦銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、大東銀行、農林中央金庫
事業拠点	本社工場、小林工場、中国工場（天津・南京）、東京支社、中央研究所、臨床牧場、全国に4ヶ所の物流センターおよび34ヶ所の直販拠点、海外事業所（北京、ニューヨーク）
グループ企業	ゼノアックリソース(株)、天津全薬動物保健品有限公司、日本バイオロジカルズ(株)、ベトキノール・ゼノアック(株)、中牧全薬（南京）動物薬品有限公司

主な経営指標

■ 売上高

■ メーカー別販売シェア (動物用医薬品のみ)

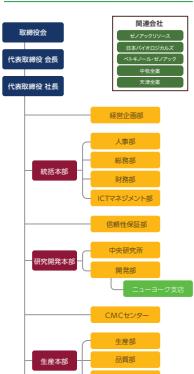
2019年度 動物用医薬品市場

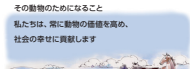
1,363億円

富士経済調べ (2020年)

■ 従業員数

■ 本社社屋





組織図

2020年4月1日現在

取締役会
代表取締役 会長
代表取締役 社長
関連会社
ゼノアックリソース
日本バイオロジカルズ
ベトキノール・ゼノアック
中牧全薬
天津全薬
経営企画部
統括本部
人事部
総務部
財務部
ICTマネジメント部
信頼性保証部
研究開発本部
中央研究所
開発部
ニューヨーク支店
CMCセンター
生産本部
生産部
品質部
海外生産企画室
SCM本部
物流サービス部
営業本部
CA事業部
LA事業部
AB事業部
事業開発本部
国際事業開発部
事業開発部
アジア事業部
北京代表処

経営理念

私たちの社会的使命

動物が人間にもたらす恵みを豊かにすること
その動物のためになること
私たちは、常に動物の価値を高め、
社会の幸せに貢献します

6つの心の共有物

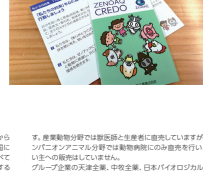
ゼノアックでは経営理念の実現に向けて、「6つの心の共有物」を行動指針としました。そして全社員が共通の価値観を持ち、自ら考え行動できるよう「ゼノアック・クレド」を策定し、実践しています。

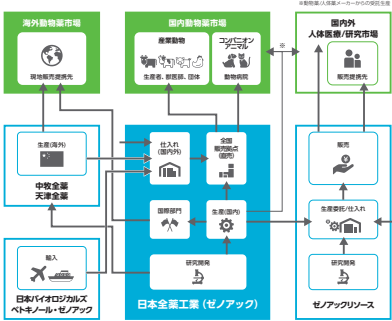
企業家精神
感謝と真心
治生産業順正法
プロフェッショナルの追求
高品質の追求
多彩な個性の尊重

感謝と真心
治生産業順正法
プロフェッショナルの追求
高品質の追求
多彩な個性の尊重
企業家精神
6つの
心の共有物

※【治生産業順正法】
創業者が座右の銘としていた日蓮聖人の御遺文集の一言。間違った行いをせず、日常生活、事業などは「正法に順じ」正しく行わなければならず、そうすれば物事(仕事や事業)は必ず達成できるという意味で、ゼノアックではコンプライアンスの遵守ととらえ、これを重視しています。

1961年に制定された社是には、
たゆまぬ鍛錬によって畜産界になくてはならぬ会社にしよう
ここで働くものが ここにつながるものが すべて幸福になる会社にしよう
と謳われており、長い間お客様や業界関係者、社員を含むすべてのステークホルダーに対する考え方の基礎となってきました。これは現在もゼノアックのCSRの精神につながっています。





考え方

ゼノアック・クレド

ゼノアックの社員は、経営理念の実現に向けて”自ら考え行動する”ことを目指します。ゼノアックは心の拠り所となる全社員共通の価値観を「ゼノアック・クレド」としてまとめ、全社員に配布しています。社員は常にクレドを携帯し、現場では読み合わせや教育、振り返りなどを行いながら、その浸透と実践に努めています。クレドの作成に当たっては、クレドの考え方に基づき「クレド作成委員会」や「クレド改訂委員会」という各部署の社員からなる組織を都度立ち上げ、社員自らの手で作り上げています。

ZENOAQ
CREDO

ゼノアックの事業領域とグループ企業

ゼノアックは動物用医薬品の専門企業として、研究開発から製造・仕入・輸出入・販売までを一貫して行っています。全国に34の販売拠点、そして中国にも生産・営業拠点があり、すべての都道府県と東アジアで事業を展開しています。対象とする市場は産業動物（牛・豚・鶏）とコンパニオンアニマル（犬・猫）で、販売製品は動物用医薬品をはじめ医療器材、飼料添加物、混合飼料、ペットフード、シャンプー、サプリメントなどです。産業動物分野では獣医師と生産者に直売していますが、コンパニオンアニマル分野では動物病院にのみ直売を行い、飼い主への販売はしていません。

グループ企業の天津全薬、中牧全薬、日本バイオロジカルズ、ベトキノール・ゼノアックからは製品の供給を受けてこれを販売し、ゼノアックリソースには細胞保存液の製品供給を行っています。

※動物薬/人体薬メーカーからの受託生産

海外動物薬市場
現地販売提携先
国内動物薬市場
産業動物
生産者、獣医師、団体
コンパニオンアニマル
動物病院
※
国内外
人体医療/研究市場
販売提携先
生産(海外)
中牧全薬
天津全薬
仕入れ(国内外)
全国販売拠点(直売)
国際部門
生産(国内)
研究開発
日本全薬工業（ゼノアック）
輸入
日本バイオロジカルズ
ベトキノール・ゼノアック
販売
¥
生産委託/仕入れ
研究開発
ゼノアックリソース

製品紹介

取扱製品は、自社製品、提携メーカー製品をあわせて400種類以上あります。その中で主要な製品について紹介します。

動物用医薬品

犬アトピー性皮膚炎の減感作療法薬

遺伝子組換えタンパク質製剤です。犬アトピー性皮膚炎の治療はこれまで困難を極めていましたが、アレルゲンを特定して原料に用いました。人体薬を含めても、アレルゲンを特定した製品は世界初です。原料となる遺伝子組換えタンパクは、福島の伝統産業であるカイコの生体を使って生産しています。

動物用医薬品

総合ミネラル固形塩

日本の畜産薬を代表するロングセラー製品です。独自の固形化技術により、雨や唾液などによって溶けにくく、各種微量ミネラルを均一に混合して固形化しているため、過剰摂取を防ぎながらバランス良くミネラルを摂取できます。

動物用医薬品

犬用の膵炎抗炎症剤

世界で初めて承認された犬用の膵炎抗炎症剤です。これまで膵炎の治療薬は存在しませんでしたが、石原産業（株）との協業により開発されました。サイトカインなどの刺激による接着分子の活性化を阻害し、抗炎症活性を示します。犬の膵炎急性期における臨床症状を改善します。

動物用医薬品

ノミ・マダニ・フィラリアなどの寄生虫駆除・予防剤

フィラリア症予防、ノミ・マダニ駆除、消化管内寄生虫駆除が一剤で出来る"オールインワン"タイプの製剤です。嗜好性の高いソフトチュアブルです。

製造販売元：ベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルス

犬猫用特別療法食

「高品質の原材料」と「嗜好性」にこだわった自然療法食で、動物病院から処方されます。動物は私たちの家族であるという思いのもと、「自然」を軸に、フェデリコ2世・ナポリ国立大学の動物栄養学部との連携と長期間の科学的研究を通して完成しました。

輸入元：ファルミナペットフーズ・ジャパン株式会社

動物用医薬品

輸液剤グループ

ゼノアックの輸液剤は国内市場シェアの大部分を占めています。糖電解質複合補液剤、汎用補液剤、栄養補液剤、その他特殊用途補液剤の4つのカテゴリー、計19種類からなり、目的や種類別に製品ラベルを色分けしています。

動物用医薬品

乳房炎用乳房注入剤グループ

泌乳期用と乾乳期用をラインナップしています。ゼノアックの独自技術により、拡散性の向上・使用禁止期間の短縮を実現した製品もあります。乳房注入剤もゼノアックは高いシェアを示しています。

飼料

子牛関連製品

子牛の健康と成長をサポートする製品群として、生後間もないステージから離乳前後まで幅広くラインナップしています。

動物用医薬品

鶏用生ワクチン

点眼接種のため、注射のストレスがなく、鶏に優しいワクチンです。それぞれ、MS感染に伴う呼吸器疾病（気嚢炎）の発症予防又は軽減、MG感染に伴う産卵率低下の軽減をします。

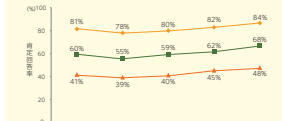
製造販売元：日本バイオロジカルズ株式会社

豚精液希釈保存用粉末

BSA（牛血清アルブミン）を含まない、動物由来原料の規制をクリアした豚精液希釈保存剤です。

細胞凍結保存液

国内外の研究者が使用する、ロングセラーの細胞凍結保存液です。2015年には、GMPに準拠した細胞凍結保存液を日本で初めて発売しました。再生医療分野からの需要を受け、ES細胞・iPS細胞に関わる研究所などで利用されています。試薬の調製を必要とせず、ディープフリーザーで急速に凍結できるため手軽に使用できます。DNA、RNAを損傷せず、融解後の細胞生存率（5～10年）も90%以上です。



お客様に対して

ゼノアックでは、全国の直販拠点の営業員がお客様との接点を積み重ねています。この"ダイレクトコミュニケーション"の強みを活かして、全社員がお客様の声を捉える窓口（リスニングポスト）となり、お客様や市場のニーズを積極的にキャッチします。この情報を経営幹部・各部署・ビジネスパートナーと共有することで、製品やサービスの改良や更なるお客様満足の向上につながる取組に展開します。

お客様満足度向上（CS）委員会

2002年にお客様満足度向上委員会（以下CS委員会）が設立され、CSに直結する取組から社内啓発まであらゆる取組を行っています。委員会メンバーは各部署における活動の中心となり、社員一人ひとりのCSマインドを向上させます。

CS調査

2009年度から外部調査機関を活用したCS調査を行っています。総合的な満足度と相関の高い項目とお客様が重視する項目を明らかにするため、4つの視点（営業、製品、物流、情報提供）から評価項目を設定しています。回答結果は全社員に共有され、ひとつひとつのお客様の声は次の取組へと生かされています。

2019年度の調査では、総合評価の肯定回答率が84.3%とこれまでの最高を記録しました。これらは、ゼノアックの社員一人ひとりがお客様との関係構築を真摯に行ってきた結果であると考えています。

CS委員会のそのほかの取組

社員のCSマインド向上を目的に、社内WEB「みんなのCS」を運営・配信しています。この情報は製品・サービスの改良や新製品開発にもつながっています。より多くのお客様の声をキャッチすることを目的に、毎年「お客様はがき」を発送していますが、その集計結果やひとつひとつの声もここに掲載されています。「知りたいCS」では、社員が仕事やプライベートで感じたおもてなしやサービスの事例を掲載しています。

また、ゼノアックのお客様対応基準を徹底させるため、「クレーム対応の心得」という携帯カードを作り、全社員に配布しています。苦情品が発生した場合の対応は、「苦情品ワークフロー」という社内システムを使って、より迅速かつ正確な対応に繋げています。

高品質な製品・サービスの提供

提案（課題解決型）営業

ゼノアックの営業活動は、単に製品を販売することではなく、お客様の抱えている悩みや課題を解決することを目的としています。AB事業部は環境調査からの改善提案、LA事業部は疾病の根本原因から解決を図る「パッケージプラン」、CA事業部は院内セミナーなど、お客様の課題を起点として様々な施策を展開しています。

検査サービス

ゼノアックではお客様から要望のある検査を行うサービスを実施しています。検査サービスによって動物生体の異常、病原体の種類、当社製品の適合性などを明らかにすることで、お客様の抱える課題の原因追求や対策の立案に寄与します。サービスは営業、学術、研究所の三者が連携し、それぞれの専門性を生かすことでお客様満足に貢献しています。また新たな検査を確立したり、これまでの検査結果をデータベース化するなど、新たな価値を創造するための活動も進めています。

●主な検査サービス項目

対象事業部	検査一例	
CA事業部	犬	バベシア（原虫）検査 Derf2特異的IgE抗体検査
	猫	PCR検査
AB事業部	鶏	Mg、MS（マイコプラズマ）リアルタイムPCR検査
LA事業部	牛豚共通	生化学検査 下痢症起因菌検査 肺炎起因菌検査 ビタミン測定
	牛	ミネラル測定
	豚	PCV2（ウイルス）検査 ※1検体に対し、PCR・ELISAの同時検査 抗体検査

ベッツダイレクト®

※ベッツダイレクトはゼノアックの登録商標です。

「ベッツダイレクト®」は動物病院様専用のEコマースシステムで、業界に先駆け2006年から開始したこのサービスは、お客様からご好評をいただいています。エリアによる受注時間までに発注された製品は最寄りの物流センターから発送され、翌日の午前中には受け取ることができます。新製品のご案内やキャンペーン情報などもいち早く提供し、ゼノアックと動物病院様を結ぶ重要なプラットフォームとなっています。

●ベッツダイレクト登録率と受注割合の推移

※ベッツダイレクト受注割合は、このシステムで受注可能なご注文のみの割合を集計しています。

次世代リーダー育成塾

畜産生産者の減少や高齢化、輸出入の関税など畜産業界を取り巻く環境が変化する中で、ゼノアックにはお客様の成長支援により踏み込んだサービスの提供が求められる時代になりました。その施策として酪農、肉牛業務に従事する次世代の経営者、後継者、役員・戦略リーダーの方々に必要な経営着眼、基本スキルの習得から、経営の課題、問題解決ノウハウを身につけてもらうため「次世代リーダー育成塾」を2016年(第一期)と2019年(第二期)に開講しました。当社はこれからの畜産業界を担う経営者育成を図ると共に、次世代経営者との関係強化を図っていきます。

SNSの活用

公式Facebookページを2018年に開設し、ホームページでは伝えきれない当社の日常や社員の取り組みなどについても紹介しています。公式YouTubeページは2019年に開設し、採用ムービーや会社案内ムービーなどのほか、現在は製品紹介や学術セミナーなども動画で提供しています。

【公式Facebook】https://www.facebook.com/zenoaq/
【公式YouTube】https://www.youtube.com/channel/UCi_EAGqYpPMRcRU1bNKXZbw

日本全薬工業株式会社
作成者: 国分 麻衣 · 2019年4月2日 ·

昨日、ゼノアックに新しい仲間が35名加わりました！

午前中には、辞令交付式が行われました。
社長から一人ひとり辞令を受け取り、緊張で手が震えながらも一生懸命な姿が印象的でした。
私たちも、あんな頃があったんだなと懐かしさを覚えました。… **もっと見る**

公式Facebook

YOUR NUTRITIONAL PET COMPANY

公式YouTube

犬アトピー性皮膚炎に関する情報サイト

犬の皮膚疾患の罹患率は25.7%と高く、4頭に1頭の割合で皮膚に異常が出ていることがわかっています。中でも犬アトピー性皮膚炎は、診断から治療までに根気のいる皮膚炎であり、動物病院やペットオーナー様においては、厄介な疾病のひとつです。2016年度に新設した本サイトでは、犬アトピー性皮膚炎の原因、症状、治療法はもちろん、自宅でできる環境対策など、ペットオーナー様にわかりやすいよう解説しています。また、犬アトピー性皮膚炎の原因となっているアレルゲンを体にいれることで、症状を和らげる治療法である「減感作療法」についてより詳しく解説しています。

犬アトピー性皮膚炎。
治療は、次世代へ。

https://www.genkansa.jp

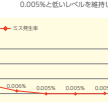
国際学会・展示会への積極参加

ゼノアックは現在、動物の価値を高めることのできるグローバル企業を目指し、その独自技術を用いた製品がもたらす価値を、日本のみならず世界に広く提案する取り組みを行っています。活動の一環としてアジアやヨーロッパで開催される学会や展示会などにも積極的に協賛、出展しています。また2018年にはアジア初開催となる「世界牛病学会2018札幌」におけるメジャースポンサー、2019年には日本で初開催の「アニマルヘルス・イノベーション・アジア（AHIA）」におけるメインスポンサーとして、ゼノアックは世界の関係者をお迎えしました。海外企業とのネットワークが強く確かなものとなり、世界の動物薬業界におけるゼノアックの存在感が高まりを見せ始めています。

ZENOAQ
ANIMAL HEAL
INNOVATION
ZENOAQ
ZENOAQ
HAVE A LICK!

←2019年
アニマルヘルス・イノベーション・アジア（AHIA）ブース

2018年世界牛病学会ブース



サンキューメッセージ

全国の販売拠点や物流センターでは、お客様に対する私たちの思いと日頃の感謝をお伝えするため、2013年度から荷物にメッセージカードを添えることにしました。全国の拠点から地域性のある写真を掲載したり、メンバー紹介、事務所や倉庫の画像、発送を行なっている様子を掲載したりするなど、ユニークな手作りのメッセージを発信しています。お客様からはねぎらいや感謝の言葉をいただき、これが私たちに何よりの励みとなっています。今後も、お客様に身近に感じていただける双方向コミュニケーションを継続してゆきます。

電話での応対力の向上「もしもし検定」「もしもしセミナー」

社内では、コールセンターのほかいくつかのチームで「もしもし検定※」を受検し、電話でのお客様対応に力を入れています。社員にはS級（指導者級）や1級（上級）の有資格者もおり、これまで電話対応やビジネスマナーに関する社内セミナーを開催していましたが、近年はもしもし検定を自社内でも開催するまでになりました。上記の社内セミナーの内容を動物病院のスタッフ様向けに行った「もしもし1時間セミナー」は、いずれのセミナーでも、院長先生をはじめスタッフ様からとても高い評価を頂いています。

※もしもし検定（電話応対技能検定）：「お客様に喜ばれるビジネス電話応対」の実現、電話応対のエキスパートとして即戦力になり得る社内の指導者の育成を目的とした検定制度で、（公財）日本電信電話ユーザ協会が実施しています。

受注・出荷ミス低減活動

物流サービス部では、受注と出荷に関するミスの低減活動を継続して行っています。発生状況の見える化と要因分析、改善活動を配送業者と密に連携して行った結果、発生率は年々減少し、2017～2019年度は0.005%と低いレベルを維持しています。

●総出荷件数に対するミス発生率の推移

TOPICS

ゼノアックの事業に関する直近のトピックスをご紹介します。

- 2018年10月　ニューヨーク支店を開設しました。アジア以外では初めての海外拠点です。
- 2019年2月　米国のバイオ・テクノロジー企業「イミュノミック・セラピューティクス」のアレルギーに対するDNAワクチン「ITI-002」の開発・商品化における独占的ライセンス契約を締結しました。
- 2019年6月　人体用医薬品製造にかかる製造業許可を取得しました。これにより、当社第三工場と品質管理棟で商業ベースでの医薬品原薬の製造と品質試験が可能になりました。
- 2019年10月　コスモ・バイオ（株）との契約締結を行いました。これは同社の「鶏卵の卵白中に、目的とする有用なタンパク質を大量に生産させるように『ゲノム編集』した特殊なニワトリ」を用いて、当社が必要とするタンパク質を大量製造・精製して納品する事業の契約です。
- 2020年3月　イタリアのペットフードメーカー「ファルミナペットフーズ」と販売契約を締結し、日本国内の動物病院向けに食事療法食「ペットライフ」を販売しています。

社員に対して

社員満足はお客様満足とも密接な関係があると認識しており、社員の働き甲斐や誇りを尊重し、組織と個人が共に成長し幸せや豊かさを享受できるよう、社員満足度調査を有効に活用し続けたいと考えています。そのために、社員満足度向上（ES）委員会は、①社員一人ひとりがやりがいを持ち、いきいきと働くことができるように働きがいのある環境づくりを継続的に行う、②社員満足に重要な要因を明らかにし、それらに関連するものを改善することで社員満足度の向上に貢献する、という役割を担って活動を行っています。

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
5 ジェンダー平等を実現しよう
8 働きがいも経済成長も

人事データ（対象：正社員）

データ１

平均年齢

41.0歳

データ２

男女比

7：3

データ３

会社指定休日数

※2020年度

データ４

文系理系の割合

4：6

データ５

平均勤続年数

16年

データ6

産休・育休の復帰率

100%

社員満足度向上（ES）委員会

2007年に社員満足度向上委員会（以下ES委員会）が設立され、この年から始まったES調査を中心に、日常のES向上につながる取組を行っています。社内グループウエアには専用ページ「イエス！ES」を開設・運営し、委員会議事録の掲載をはじめ、全国拠点スタッフの紹介や各種写真コンテストの実施など社員相互のつながりを深める取り組みを行っています。

社員満足度（ES）調査

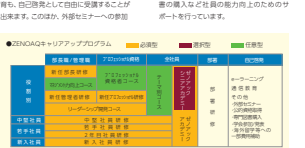
全社レベルでの社員満足・不満足を定量的に把握するため、また、社員の意見を把握し改善につなげるため、外部調査会社による全従業員を対象としたES調査を2007年から定期的に実施しており、毎回非常に高い回答率（93～96%）となっています。
全社のES調査結果サマリーは全社員に向けて公開しており、全社的な問題点はES委員会と担当部署が主体になって不満足要因を分析し、改善を進める上での課題を明らかにしています。部署毎の調査結果は部署内で共有され、部署内の意見交換会などで不満足要因を分析し自部署の改善活動につなげています。
社員満足度は毎年確実に向上し、ベンチマーク値を大きく超えています。「ダノアックで働くことが私自身の幸福につながっている」との個別設問においても、2018年度は65.8%の社員が肯定回答（「非常に満足」または「満足」）を示しています。

社内WEB「イエス！ES」

ES委員会の議事録、全国拠点スタッフの紹介、各種写真コンテスト等を掲載し、社員相互のコミュニケーションの活性化と社員のつながりを深めることを目的として、ES委員会ではZweb（グループウエア）に「イエス！ES」ページを開設・運営しています。

研修・教育制度

社員個々人の能力は、様々な物事に関心を持ち"気づき"を得ることで、"自ら考え行動する"ことで向上すると考えています。私たちは社員のOJT、OFF-JT、自己啓発などで学ぶ機会や気づきの機会が増えること、何事にも目標と責任を持って取り組む習慣が身につくこと、チャレンジできる風土・環境を醸成することが、学習意欲を高める動機づけにつながると考えています。個々人が、高いレベルの専門知識やスキル、人間的な魅力を備えた「プロフェッショナル」となれることを、能力向上の目標としています。



教育体制

ゼノアックの教育体系「ゼノアック・キャリアアッププログラム」は、2012年度から本格的に運用している教育体系を社員のニーズやアイディア、会社の方向性に合ったものに改編し、2016年度からスタートさせました。

全社共通・必須型の階層別研修は、新入社員、2年目社員、若手社員、中堅社員向けにあり、次期リーダーのためのリーダーシップ開発コース、新任管理者研修、新任プロフェッショナル研修、新任部長研修と続きます。任意型の階層別研修もあります。部署別にはそれぞれの専門分野に特化した講習や勉強会が年間で複数回開催されます。外部教育機関と連携したe-ラーニングや通信教育も、自己啓発として自由に受講することが出来ます。このほか、外部セミナーへの参加や公的資格の取得、学会参加・発表、専門図書の購入など社員の能力向上のためのサポートを行っています。

●ZENOAQキャリアアッププログラム

必須型
選択型
任意型
部長職/管理職
ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ資格
全社員
部署
自己啓発
役割別
新任部長研修
ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ力向上コース
ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ資格者コース
新任管理者研修
新任ﾌﾟﾛﾌｪｯｼｮﾅﾙ研修
リーダーシップ開発コース
テーマ別コース
ゼノアックシニアアカデミー
ゼノアックアカデミー
部署研修
e−ラーニング
通信教育
その他
·外部セミナー
·公的資格取得
·専門図書購入
·学会参加/発表
·海外留学等への一部費用補助
中堅社員
中堅社員研修
若手社員
若手社員研修
2年目社員研修
新入社員
新入社員研修

※中堅社員は、30代前半の社員。　※若手社員は、20代の社員。

プロフェッショナル資格制度

CC（コアコンピタンス）経営の確立・実現を目指し、人材のプロフェッショナル化を進める中で、より高度でユニークなスキル、技術、知識を持った人材に、早期にその専門性を生かせる活躍の場を提供するとともに、それに相応しい処遇を行うことを目的としたのがプロフェッショナル資格制度です。必要条件を備えた社員の自薦・他薦で応募でき、ペーパーテストと上司による審査書、レポート提出などを経て経営幹部が認定します。営業部門から制度を開始しその後非営業部門にも展開していますが、現在の取得率目標は営業部門では50%、非営業部門では30%です。

●プロフェッショナル資格者比率の推移

業績報告会と社内表彰

社員個人をはじめ、チームや部署間連携により取り組んだ成果を発表し、その活動を共有する場として、全社および各本部単位でさまざまな報告会を行なっています。社内のどの部署でも聴講ができるように、オープン型の報告会にしています。

また社員のモチベーションと業務レベルの向上を目的に、社内表彰制度を設けています。これまでは経営品質向上活動の展開にあわせた賞を設けていましたが、2019年度からの2年間は、ゼノアックのミッションである「動物の価値を高め社会の幸せに貢献する」をどれだけ実現できたかを評価する「社会的使命貢献賞」としました。これまでの業務の延長上にはないユニークな、そしてお客様や社会に貢献度の高い取組が紹介されました。

ダイバーシティの推進

ゼノアックの掲げる「6つのQの共有制」の一つに「多彩な個性の尊重」があります。性別や年齢、国籍、人種、宗教、そのほかさまざまな個性観の違いは、一つ一つが個性と捉えます。お互いに認め合い、その多様な視点による相乗効果から生み出される創造性を、ゼノアックは企業力の源泉としています。

ポジティブアクション

ポジティブ・アクションという女性活躍のための取組を行っています。先進企業の取組を紹介し啓発する講演会を開催したり、社内報に連載記事を掲載したりしています。近年の新卒採用は男女比はほぼ同じ、女性の管理職登用も積極的に行っています。現在の女性管理職比率は15.6%で、日本国内平均（7.8%）の倍となっています。

多様な雇用形態

ゼノアックでは業務内容や期待役割に応じて、正社員、パート社員、嘱託社員、派遣社員など様々な働き方を提供しています。パート社員や派遣社員からの正社員登用制度もあります。60歳の定年を迎えた社員は、再雇用制度により65歳まで希望に応じて働き、長年培ったスキルやノウハウを社内に伝承する大切な役割を担って活躍しています。国籍、人種、宗教、障がいの有無にかかわらず、魅力的な人材の確保をすすめています。

障がい者の雇用について

ゼノアックでは障がいも個性のひとつと考え、一人ひとりの個性を尊重したい、自ら考え行動する仲間を求めています。地域の特別支援学校への訪問やパローフーンの生産する障がい者合同面接会などに参加し、採用活動を行っています。障がいの種類や程度に応じて、障がいのある社員が様々な仕事を行っていますが、対話をさらに重ね、その要望を汲み取り、その社員にあった働き方が実現できるよう努めてゆきます。

ワークライフバランスと各種制度

社員の価値観やライフスタイルの多様化に対応し、子育てや介護、家庭・地域活動・自己啓発等に個人の時間を持ち、健康で豊かな生活ができるようさまざまな制度があります。

フレックスタイム制度、永年勤続者に対するリフレッシュ休暇制度、育児・介護における雇用形態一時変更制度、社員に育児・介護の必要が発生した際に取得できる看護休暇制度と介護休暇制度、結婚・出産等退職者再雇用制度など、社員の声や社会情勢の変化を受け、新しい制度の創設や既行制度の改訂を時々行っています。

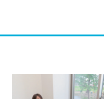
また、部署や個人によってバラつきのあった勤務時間管理を改善するため、これまでのルールの見直しと勤怠システムの更新を行い、残業時間を厳格に管理しています。有給休暇は消化率日標を設定し、運用管理を行っています。

自己申告制度

自己申告制度は毎年、現在の担当職務と異動、キャリアプラン、勤務地、その他特殊事情などについて、希望者が直属の上司を通さず、直接会社側（人事部長および人事担当役員）に申告するもので、満1年以上の正社員を対象に実施しています。申告者とは必要に応じて面談を実施し、できる限り多くの社員の申告内容に対応できるよう努力しています。

公正な評価

ゼノアックの人事評価制度は、目標に対する成果評価とそれにつながる行動評価の2つから成り立っており、四半期毎の直属上司との面談が義務化されています。新任管理者に対する評価者研修も行われ、評価制度の公正性・公平性を支えています。正社員の評価方法に準じてパート社員や嘱託社員に対する評価制度もあり、非正規社員のモチベーション向上にも貢献しています。



健康管理

年に1回の健康診断受診は、35歳未満は法定健康診断ですが、ゼノアックの場合35歳以上は生活習慣病予防検診から人間ドックが選択でき、その費用はいずれも会社が全額負担します。有機溶剤や特定化学物質を取り扱う作業者には特殊健康診断も加えられています。全社員の健康データは一括管理され、今後の健康管理施策に役立てられます。また年に1回のストレスチェックも実施され、希望者には専門医によるコンサルティングも受けられます。

健康増進のために「ゼノアック・ウォーキングキャンペーン」を共に開催しています。スマートフォンアプリを使って歩数や消費カロリーを記録し、上位者と目標達成者全員が表彰されます。

健康診断

ウォーキングキャンペーンイメージ

福利厚生

ランドセルの寄贈

小学校に入学する社員の児童全員に毎年ランドセルを贈っています。創業者が孤児にランドセルを買いうえることができなかったが辛い経験から、社員には同じ思いをさせたくないと考え、1957（昭和32）年から現在まで継続しています。

社員の集いと社員旅行

本社、拠点単位で社員と家族の親睦を深めるため、「社員の集い」を毎年実施しています。社員有志による実行委員会を編成した大規模なパーティや、各拠点においては日帰り旅行やバーベキューなどを実施しています。また2000年度に実施して以来しばらくく中断していた社員旅行を2017年度に復活させました。目的地や期間、自由行動の選択などさまざまな社員の声を聞き、参加も希望者のみとしましたが、実施後のアンケートでは肯定回答率が97%と大変好評でした。

社員の集い

社員の集い

グレートフルパーティー

グレートフルパーティー

磐梯会

社員相互の親睦を図り、もって社の発展を期することを目的とした磐梯会は、1956年5月の発足から積極的に活動を続けています。スポーツ・文化のための各種部活動とサポート、社内親睦行事の主催やサポート、慶弔や傷病等へのお見舞いなど、会社と社員、その家族との心をつなぐ大切な役割を担っています。

華道部

茶道部

福利厚生サービス

従業員は社外の福利厚生サービスで旅行やレジャー、ショッピング、スポーツ、通信教育、生活サービス等を利用することができます。対象は社員本人のみならず、配偶者とそれぞれの二親等の親族まで適用できます。

今だけ ゴーゴーベネステキャンペーン
ベネ・ステ × Go To トラベル キャンペーン
50%
D.LEAGUE
ハッピー&サンクス・フェスタ 2020
2021年2月20日(土)

社内報

組織と社員そして社員同士を結ぶ社内報を1965年から発行し、2001年からは社員の仕事や生活をより良いものにするため、動物と社会そして未来をみつめる情報誌「OCULUS　オクルス」と改名しリニューアルしました。2015年度からはデジタル版も発行され、現在は創刊号からのアーカイブもイントラネットで閲覧できます。2020年には200号を数えました。

※OCULUS（オクルス）とはラテン語で「目」。ロゴマークが動物の目をモチーフとしたことから命名しました。

コンプライアンス

私たちは企業人であると同時に社会の一員でもあるとの考えのもと、社会的責任に関して「6つの心の共有物（P4参照）」の中に「治生産業順正法」、「感謝と真心」を示し、指針としています。

薬事関連法をはじめとした法令遵守はもちろん、社会からの信頼と共感をいただける企業であり続けるために高度な倫理観で自らを律し、コンプライアンスの徹底を図ります。

3 すべての人に健康と福祉を
16 平和と公正をすべての人に

コンプライアンス教育

社会からの要求は時代に応じて変化しています。法令等の遵守に留まらず、社員のコンプライアンス意識向上を目的として、CSR委員会が部署単位の教育を推進しています。各部署では最低年2回のコンプライアンス教育を実施することとしており、各部署に配置されたコンプライアンス推進委員が教育計画の立案と教育実施後の報告を行なっています。2018年度を除き、2014年度以降の教育実施率は100%を達成しており、社員個々のコンプライアンス意識や、組織の考え方や取り組みに対する社員の評価も高いレベルにあります。

●社内コンプライアンス教育と社会的責任に関する意識調査の推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
◆ 社内コンプライアンス教育実施率　目標：100%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	99.1%	100.0%
■ ビジネス上の倫理観（ES調査）目標：80%	81.2%	78.1%	78.9%	—	83.1%	—
▲ 企業としての社会的責任（ES調査）目標：80%	81.1%	80.9%	82.3%	—	79.2%	—

薬事コンプライアンス委員会

私たちの動物用医薬品業界は、高いレベルでのコンプライアンスが求められますが、2014 年度末、業界における薬事コンプライアンス違反が続く結果となり、この状況を受け、日本動物用医薬品協会から再発防止策が打ち出されました。

ゼノアックではこれまで CSR 委員会がコンプライアンスを推進してきましたが、薬事を最重視する観点から、2015 年度、社長直轄の「薬事コンプライアンス委員会」を新たに設置しました。当該委員会は、社長を委員長、副社長、専務取締役を副委員長とし、営業・研究開発・製造・流通各部門の本部長を委員とし組織され、6つの役割（薬事コンプライアンスに基づく経営支援、組織体制の確立、ルール等の整備と継続的な改訂、教育・研修、薬事コンプライアンスチェック（内部監査)、全社自己点検）のもと、薬事コンプライアンスの周知徹底とチェック機能を担っています。

●薬事コンプライアンス委員会の組織と役割

委員長：社　長

副委員長：副社長・専務取締役

委員：
営業・研究開発・製造・流通各部門の本部長

事務局：信頼性保証部　薬事チーム

薬事コンプライアンスに基づく経営支援
組織体制の確立
ルール等の整備と継続的な改訂推進
薬事コンプライアンスチェック(内部監査)
教育・研修の推進
全社自己点検

GMP、三極対応GMP

高品質な医薬品を恒常的に生産するため、医薬品の製造は GMP 省令（Good Manufacturing Practice：医薬品の製造及び品質管理に関する基準）に準拠することが求められます。ゼノアックは動物用医薬品の GMP 省令に先駆け、GMP ソフト及びハードの整備を進め、いち早く GMP 体制を確立してきました。また、2014 年には三極（日、米、欧）対応 GMP に準拠した製造施設を建設し、海外も視野に入れた GMP 体制の確立に取組んでいます。

GLP

動物用医薬品の安全性を評価する試験や検査が正確かつ適切に行われていることを保証するため、ゼノアックでは 1989 年より GLP 省令（Good Laboratory Practice：医薬品の非臨床試験の安全性に関する信頼性確保のための基準 ）に従って試験を実施しています。試験施設が備えるべき設備、機器ならびに組織や試験の手順等について SOP（標準操作手順書）を作成し、これに従って試験を実施することでその信頼性を確保しています。また、QAU（信頼性保証部門）が試験の信頼性に問題がないかチェックを行い、必要な指摘や勧告を行っています。GLP 教育は年1回実施し、研究開発に携わる社員全員の GLP への理解を深めています。

2014年、三極（日米欧）GMP基準に準拠した
第三工場（バイオプラント）完成

2017年、三極GMPと人体薬のGMP対応を
目指す品質管理棟完成

品質保証と安全管理の体制

品質保証（GQP）

信頼性保証部内にGQP部門として品質保証推進チームを設置し、GQP省令に基づき、製造販売している医薬品、医療機器等の品質を確保するための、市場への出荷の管理、製造業者に対する管理監督、品質等に関する情報及び品質不良等の処理、回収処理のほか製品の品質管理に必要な業務を行っています。

その他として、医薬品や医薬部外品を製造販売するために必要な製造販売承認の維持管理や行政対応などを行っています。

※GQP： Good Quality Practice（ 医療品等の品質管理の基準）

安全管理（GVP）

直販体制を生かしたGVP体制を整備し、GVP省令に基づき、医薬品、医療機器等の「安全管理情報」の収集、検討及びその結果に基づく必要な措置に関する業務（安全確保業務）を行っています。「安全管理情報」とは、医薬品、医薬部外品等の品質、有効性及び安全性に関する事項、その他医薬品等の適正な使用のために必要な情報をいいます。

獣医師及びお客様から報告いただく副作用情報に関しては、発生した副作用の分析や農林水産省への報告対応等を行い、より安全な医薬品の製造販売に繋げています。

※GVP： Good Vigilance Practice （医薬品等の製造販売後の安全管理の基準）

製造業（GMP）
医薬品製造管理者
製造管理責任者
指図・製造記録
製造結果の報告
原材料入荷
製造
保管
品質試験
工場出荷
試験検査
出荷判定
品質管理責任者
報告
QA責任者
市場出荷
製造販売業
総括製造販売責任者
報告
監督・指示
品質保証責任者(GQP)
安全管理責任者(GVP)

動物実験と動物倫理

動物実験憲章と動物実験指針

ゼノアックの動物実験委員会は、2005年度に「日本全薬工業動物実験憲章」と「動物実験指針」を策定しました（憲章は2008年度、指針は2016年度に改定）。憲章には、動物の権利（animal rights）を認め人間はそれを守る義務があるという動物福祉の基本的考え方に基づき、関係法令やガイドラインに則り、4R※を全社共通の基本理念として適正な動物実験の実施を促すと記しています。指針では、動物福祉のほか、科学的に正しいデータを得ること、実験者の安全を守ることのための具体的な方法が記されています。

動物実験の実施に際しては、この憲章と指針に従って試験計画書と動物実験審査申請書を作成し、動物実験委員会の承認の下に実験が行われる体制になっています。

動物実験が適正に行われているか、動物の飼育環境に問題あるいは改善等が必要であるかなどを評価するために、内部評価（自己点検）システムの導入を検討しています。また、各動物施設において「実験動物管理者」や「管理獣医師」の任命ならびに国際基準（ILAR基準）に従った飼育環境改善の検討を行っています。

※4 Rs：1957年、M.M.S.Russel によって提唱された動物実験の3Rの原則、Replacement（代替法の活用）、Reduction（使用数の削減）、Refinment（苦痛の削減）に、1995年R.Banks によって追加されたResponsibility（責任）の4つの原則。

動物倫理・福祉教育

研究開発本部では、社員向けに年1回、内部または外部講師を招いて、動物実験に関する法律の改正や世界的なトレンドなど、動物倫理・福祉に関する教育を実施しています。

動物慰霊碑

年2回お彼岸頃に行われる動物慰霊祭

公的研究費の取り扱いについて

ゼノアックは、文部科学大臣決定 (平成 26 年 2 月 18 日改正)「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に則って「公的研究費管理規程」を制定しました。当社は公的研究費管理規程に従って、公的研究に取組みます。公的研究費の運営・管理は、社長を最高管理責任者とし、公的資金を導入する本部長と部長がそれぞれ統括管理責任者、公的研究費管理責任者という体制です。最高管理責任者は、率先して不正防止を推進し、自ら不正防止計画の進捗管理に努めます。

防疫管理

防疫体制の確立

口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚熱（豚コレラ）などの家畜の伝染病は、地域の畜産業に重大な被害をもたらし、また BSE などの人獣共通感染症は人の健康も脅かします。ゼノアックが病原体の発生やまん延に関わることのないよう、日頃から製品や原材料の輸入と輸出に関して十分な防疫管理を行うとともに、人の移動についても、販売拠点から本社まで細心の注意を払っています。2017 年には海外からの家畜伝染病蔓延リスクを低減することを目的として、「海外からの来客に関する規程」を新設し、海外のお客様が当社施設や国内の農場に入場する際のルールを規定し運用しています。伝染病の発生時には危機管理委員会や緊急対策本部からの通達により、蔓延防止の対策措置や支援物資（消毒薬等）の供給などが行われています。

車輌消毒装置

海外からの製品も直接運ばれる本社（東日本物流センター）では、物流業者様と社員が通行する北門・正門に車両消毒装置を設置し、物流面での病原微生物の侵入・媒介を防ぐ対策を行ってきました。中国の天津全薬では大型の消毒装置を早くから設置し運用しています。またすべての拠点の出入り口に消毒マットを設置し、建物内外に病原体が拡散することを防いでいます。

広告・表示の適正化

動物用医薬品・医療機器等、飼料・飼料添加物、ペットフード等のパッケージや添付文書、広告に関しては、それぞれに関連し規制する法令があります。それらを遵守し正しい表現を行うための社内ルールを運用していましたが、2010 年度にこれを再整備し体系化して「ZENOAQ-CLC ※」としました。実務関係部署の確認と複数の薬事担当部署の確認、承認をワークフローシステムによって運営することで、広告・表示等のコンプライアンスを担保するとともに、手続きの効率化も図っています。

※ZENOAQ-CLC： ZENOAQ Customer Literature Clearance の略。ゼノアックがお客様に配布する印刷物等の表現チェックに関する手続き。

交通事故削減運動

ゼノアックでは、交通安全を重要方針としており、全社を挙げて交通事故削減に取り組んでいます。

全拠点で「安全運転管理者」を任命し、それぞれ交通についての指導・管理を行っています。本社からは、全社向けの交通安全資料や毎月の事故レポートの配信を行い、本社・各拠点では、外部講師（警察、交通安全センター、保険会社など）や DVD 等による交通安全教育を行っています。1年間の無事故無違反達成者への表彰制度も制定しました。若手社員や事故惹起者の社有車には、早くからテレマティクス※を導入していますが、現在は全営業車にドライブレコーダー一体型のテレマティクス導入を進めています。2022 年末には､全営業車両が安全機能装備となる見通しです。本社構内ではスピードガンによる走行速度チェックを定期的に行い、また北門では近隣小学生の登校時に社員のボランティアで交通誘導を毎日行っています。

視覚障害者の交通事故防止を目的とした、地域のラジオ局の「通りゃんせ基金」キャンペーンに長年協賛しています。また同局が 2020 年に開始した「命を守るキャンペーン」にも協賛しています。

※テレマティクス：車両運行管理システム。車両に設置したセンサーと GPS により運行状況が記録され、危険を伴う運転の場合は直ちに運転者とその監督者にアラートが発生する仕組みの監督者にアラートが発生する仕組み。

●車両事故（自損を含む）の発生件数の推移

内部通報窓口の運用

ゼノアックコンプライアンス行動規準や法令等に違反する行為などについて、社員が直接通報、相談できる仕組みがあります。「ゼノアック内部通報規程（2007 年制定）」に基づき「ゼノアック コンプライアンスヘルプライン」の名称で社内（人事総務部）と社外（顧問弁護士）に窓口を設置し運用しています。また、女性社員の相談や通報に適切に対応するため、2010 年に女性担当者を配置した女性専用の窓口（社外）も開設しています。

この制度はパート社員、派遣社員を含めゼノアックで働く全ての人が利用することができ、通報や相談者の個人情報の保護を徹底するとともに、通報者が不利益な扱いを受けないことを保証しています。

■社外通報フロー

●一般相談窓口　電話番号：024-922-7810

●女性専用窓口　電話番号：024-922-7822

■社内通報フロー

電話番号：024-945-2875

CSR委員会で作成した
内部通報フロー

情報セキュリティ

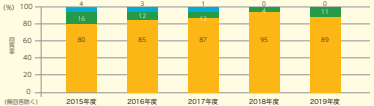
情報セキュリティは、ICT マネジメント部が主導して推進を行っています。まずシステム管理や個人情報保護に関する「情報システム管理規定」ならびに「情報システム管理規定細則」を定め、情報・データの安全性や正確性の確保、利用方法などの伝達・啓発とそれらの随時見直しを行っています。ウィルスやマルウェア対策として、ゼロトラストセキュリティモデルをベースに、各種セキュリティアプリケーションやメールフィルタリングサービスを導入。更にグループウエアの「Zweb」を利用し、セキュリティに関する注意喚起と啓発・指示を行っています。またシステムのユーザーである社内部門からの要望や、トラブル等の問い合わせなどをデータベース化し、継続的な改善に努めています。

その他、無停電電源装置やファイヤーウォールの設置、アクセス権限設定、サーバ室の入室認証、端末監視システムなど一般的なセキュリティ対策のほか、PC の HDD 暗号化、MDM によるスマートフォン・タブレットの管理や遠隔消去など、活用が増加するモバイル環境への対策も行っています。システム異常メールが即時に情報管理担当者の携帯電話に配信される 24 時間監視の仕組みもあり、夜間の緊急作業等を行うことで翌日の業務への影響を最小限にしています。一部の基幹システムサーバは本社（郡山市）と社外（西日本）のデータセンターとで冗長化され、大災害の発生にも事業継続が可能な備えをしています。

個人情報保護

2005 年に策定し WEB サイトに公開した「個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）」は、JISQ15001:2006（個人情報保護マネジメントシステム）にも準拠するよう、2010 年に改定を行っています。このポリシーに基づく「個人情報保護規程」で運用を行っていますが、現在まで個人情報に関わる重大事故の発生はありません。また 2015 年度にはマイナンバー法に対応するため、新たに「特定個人情報取扱規程」を策定し、厳重な管理と運用を行っています。

http://zenoaq.jp/privacypolicy.html



ビジネスパートナーとの関係

ビジネスパートナー（以下 BP）は、事業遂行において重要かつ大切な存在で、CSR は BP と一体になって推進されるべきものと考え、日頃から BP との関係強化を図っています。主要なBPにはアンケートを毎年実施し、ゼノアックへの評価と課題を聞き取り、その解決（フォロー）を行っています。このくり返しが相互理解を深め、信頼できる関係づくりに寄与しています。BP とは知的財産や個人情報等の機密保持を確実に行い、公正で真摯な取引を行っています。BP とは単なる取引先という関係にとどまらず、積極的な協働によって新たな価値を創造してゆく関係を目指しています。

●主要BPによるゼノアックへの満足度の推移：サプライヤー(製薬・製品メーカー)

環境

ゼノアックは、地球環境の保全が人と動物が幸福に共存するために重要であると考え、あらゆる企業活動において地球環境への配慮と維持向上に努めています。環境法令・規準を遵守し、さらに、環境を保全・向上させるため、資源・エネルギーの効率的利用と排出物の削減、製品・生産プロセスが環境に与える影響についての評価とその軽減を図ります。また、環境に配慮したものづくりとそのための技術開発に努め、環境に悪影響を与え、または与える恐れがある場合には、その除去および改善に迅速・的確に対応します。さらに地域社会の環境保全向上活動に協力し、公正・適切な情報を提供するとともに、社員一人ひとりが環境問題の重要性を理解し、自覚をもって行動します。

2 飢餓をゼロに
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに
11 住み続けられるまちづくりを
14 海の豊かさを守ろう

省エネルギー委員会

全社及び各部門でエネルギー使用の合理化目標と実施計画を設定・実行し、定期的に達成度の確認を行い、必要に応じて改善の措置を講じることが省エネルギー委員会の役割です。エネルギー使用の合理化目標は、「5年間平均原単位」において年1%以上の低減です。2017年度以降はこの目標を達成し続けています。

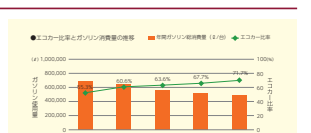
●エネルギー使用量（原単位）

エコ・環境推進チームの設置と活動

これまで「環境管理チーム」は主に本社敷地内の環境整備や施設管理などを行っていましたが、全社的にエコロジーと環境保全を推進するためにチーム組織を改編し、2010年度に「エコ・環境推進チーム」を設置しました。その役割は年々重要度を増し、改正省エネ法など環境関連法令に対する対応に取り組んでいます。毎日のエネルギー管理や環境保全業務のほか、省エネルギー委員会では事務局を担当し、またチームメンバーはエコ検定にもチャレンジするなど、積極的な活動でその役割を果たしています。

敷地内エネルギー管理

環境整備



エコカーの導入促進

ゼノアックでは営業車輌約350台を保有することから、2012年以降エコカー（ハイブリッド車）の導入を積極的に行いCO2排出削減に努めています。2019年度末時点では保有車両の71.7%がエコカーとなっており、ガソリン消費量も、2018年度は前年比で7%、2019年度は4%の削減を達成しています。

●エコカー比率とガソリン消費量の推移

環境配慮型エネルギーへの転換

LNGへの切替え

生産工程に使用するボイラーの燃料を、2013 年度より重油から LNG（液化天然ガス）へ転換し、より効率的な運用も行うことで、省エネルギーとCO2・窒素酸化物・硫黄酸化物の排出削減を行っています。

太陽光・風力発電

本社の研修管理棟は、太陽光発電と風力発電の自然エネルギーを活用しています。またエネルギー（電力）使用量や CO2 の排出量を表示するデジタルサイネージを研修管理棟エントランスや社員食堂に設置し、省エネに対する意識を高める取り組みを行っています。このほか各施設や拠点においては、省エネタイプの照明器具（LED）への順次交換や二重窓の取り付けなど、節電と経費削減に成果を上げています。

太陽光発電と風力発電

エネルギー使用量を表示するデジタルサイネージ

脱プラスチックの推進

海洋プラスチックごみが海の生態系に重大な影響を与えるとして、脱プラスチックへの動きが世界で加速しています。ゼノアックは 2019 年より、製品出荷時に使用していたプラスチック緩衝材を紙緩衝材に全面的に切り替えることで、脱プラスチックを進させました。紙緩衝材に使用されるクラフト紙の原料は間伐材から作られた 100%バージンパルプで、環境に優しい FSC® 認証※を受けています。

また緩衝材を高速排出できるこのシステムの導入により、出荷作業時間が大幅に短縮し、資材コストとあわせたトータル経費も削減することができました。

※FSC® 認証：FSC®（Forest Stewardship Council®、森林管理協議会）は、木材を生産する世界の森林と、その森林から切り出された木材の流通や加工のプロセスを認証する国際機関で、その認証は、森林の環境保全に配慮し、地域社会の利益にかない、経済的にも継続可能な形で生産された木材に与えられます。この FSC のマークが入った製品を買うことで、消費者は世界の森林保全を間接的に応援できる仕組みです。

電子化推進による環境対応

WEB会議システムの活用

ゼノアックでは 2009 年度より WEB 会議システムを導入しています。これによりさまざまな交通手段による移動で発生する CO2 の削減に貢献し、また交通費や移動時間の削減にも役立っています。新型コロナ対策による在宅勤務の推進もあり、2019 年度末からは WEB 会議システムをこれまでよりも積極的に活用するようになりました。

紙の使用削減

社内で使用する書類は、可能な限り電子化を行うことで紙の削減を行っています。電子メールのほか社内での連絡や書類の共有はクラウドサービスをメインで利用し、稟議・回議はほとんどワークフローシステムで行っています。近年ではチームワーク向けのプラットフォームを活用することで一層の電子化が進みました。これにより、会議資料や保存資料などのほとんどの紙資料が削減されています。なお、社内の複合機は計画的に最新の省エネタイプに入替えを行い、部署別に出力枚数の集計・管理も行っています。

リサイクル活動

お客様への製品発送においては、可能な限りダンボール箱を再利用しています。再利用のダンボール箱には、オリジナルの「エコシール」を元の製品名等の上に貼り付けることにより、お客様が誤認されないように考え工夫を加えています。また、通常は廃棄されることになるラップフイルム、バンド、破損プラスチックパレットなどは廃棄せず、再利用できる専門業者を選択してリサイクルを進めています。

賞味期限A
18.06.04
エコ環境推進のため包装資材をリユースさせて頂いております
ZENOAQ
LLP-31

配送ダンボール箱の再利用

プラスチックバンドの分別

地域環境の美化活動

全国の販売拠点では、お世話になっている地域の美化活動にも積極的に取り組んでいます。交通安全を意識した黄色のベストを着用し、早朝に会社近辺のゴミ拾いを行うことで、地域に溶け込んだ活動として皆さまから認知いただいています。近隣の方々との挨拶も気持ち良く、一日のスタートにモチベーションを上げることにもつながっています。

本社の美化活動は、2015年度から「ペットが散歩しやすい環境づくり」をテーマに、本社周辺の道路のゴミ拾いを中心に年間計画に基づいて継続して取り組んでいます。

日常のエコ活動

製品包装の簡素化や配送業務の効率化などにより、事業活動を通じたエコ活動に取り組んでいます。

また、クールビズやウォームビズの推進やエコデー(ノー残業デー)の設定などにより、社員個人が省エネルギーに対する意識を高める活動を行っています。

使用していないときは
便座のフタを
しめましょう!
使用していないときにフタを閉めることで
エコ・環境推進チーム

社内のエコ活動の呼びかけ

環境法制への対応

環境に関する定期的な測定、届出・報告等、環境関連法規の遵守に努めており、現在、重大な環境関連法規制等の違反はありません。今後も継続して適正管理に努めてゆきます。

1. 産業廃棄物の適正処理

産業廃棄物の委託処理に際しては、委託業者の許可状況を十分に確認しています。また、適切な処理業者との委託契約により、産業廃棄物のリサイクル化を推進するとともに、有価物化を推進し、廃棄物の排出量削減にも努めています。

2. フロン排出抑制法

（フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律）

2015 年 4 月より、フロン排出抑制法が施行されました。当社では、冷媒としてフロンを使用する機器を所有しており、この法律に基づき対象となる業務用のエアコン、冷凍冷蔵装置について機器の管理、フロン類の適正管理を行っています。

3. 排水浄化処理

当社の工場および研究所では、排水処理施設により、排水は全工浄化処理をしてから河川・公共下水道に排出しています。定期的に水質検査を実施し、適正に管理を行っています。

毒物及び劇物取締法への対応

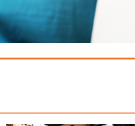
ゼノアックでは、毒物及び劇物取締法に従い、毒物及び劇物の管理を実施しています。法で定められた医薬品以外の毒物及び劇物の取り扱いに関し SOP（標準操作手順書）を定め、運営管理者から任命された毒物劇物取扱責任者と副責任者が中心となり、法令と本手順書に従って適正に行われるよう管理方法を定めて注意喚起を行うほか、全体教育や OJT により指導し、保健衛生上の危害の防止に努めています。

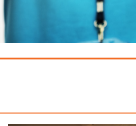
病原体の管理

ワクチンの菊越試験等で使用する病原体のうち、国民保護法に基づく調査該当病原体と家畜伝染病予防法病原体所持規制該当病原体については、保管・取扱場所の入出者を制限し、かつ社内外への汚染・拡散を防止するために取扱施設基準に適合した実験室で適切に取り扱っています。

PRTR法と福島県化学物質適正管理指針への対応

ゼノアックでは、PRTR 法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）と福島県化学物質適正管理指針に従い、1 年間の該当化合物の取扱量と保管量について調査・集計し、毎年 6 月に報告しています。





社会貢献

ゼノアックが取り組む社会貢献の範囲は、畜産・動物関連業界や動物薬業界に関する取り組みや、ゼノアックの持つ独自性を活かし地域発展に寄与する取組みとしています。2014年には「社会貢献活動の基本的考え方」を定め、事業活動を通じた活動に加え、社員の自主性に基づく活動を推奨しています。

1. ゼノアックが持つスキルやノウハウ、経営資源を活かして、動物と人を取り巻く社会が抱える課題の解決につながる貢献活動に取り組みます。
2. 共通の価値観を持つ外部組織等との連携や寄付活動を通じて、動物の福祉向上や命を守る貢献活動に取り組みます。
3. 地域社会を構成する一員として、地域社会からの要請に応える貢献活動に取り組みます。

3 すべての人に健康と福祉を
4 質の高い教育をみんなに
8 働きがいも経済成長も
9 産業と技術革新の基盤をつくろう
17 パートナーシップで目標を達成しよう

お客様に対して

しゃくなげ会

1961 年、創業者が畜産先進国アメリカを視察した際、自社の発展は日本の畜産の発展にあることに気づき、のちに畜産技術者と臨床獣医師の技術向上と交流の場を提供する「しゃくなげ会」を立ち上げました。1969 年に設立した北海道しゃくなげ会をはじめ、50 年が経過した今では全国 36 都道府県を網羅する 10 の地区しゃくなげ会研修会が開催され、毎年全国でおよそ 1,100 名が参加するまでになりました。研修会のテーマは、各地区の臨床獣医師を主体としたしゃくなげ会役員会でタイムリーな地域に密着した内容となるよう検討しています。また、参加されたお客様へのアンケートを実施し、結果や対応をしゃくなげ会のホームページや次年度の研修会テキストにも掲載し、運営の改善に役立てています。長年の実績により、地区しゃくなげ会は（公社）日本獣医師会の「獣医師生涯研修事業」に民間企業の研修会で唯一認定されており、獣医師、畜産関係者の卒後教育の場として畜産界発展に寄与しています。

南東北しゃくなげ会

関東しゃくなげ会

●しゃくなげ会アンケート結果の推移

●しゃくなげ会の歴史と実績

会名	設立年度	単独開催回数	2016年度参加人数	2017年度参加人数	2018年度参加人数	2019年度参加人数	獣医師生涯研修
北海道しゃくなげ会	1969	52	250	275	196	248	3ポイント
北東北しゃくなげ会	2007	11	103	90	96	77	2ポイント
南東北しゃくなげ会	2009	9	89	106	101	95	2ポイント
関東しゃくなげ会	1980	40	192	204	197	214	2ポイント
東海しゃくなげ会	2004	16	59	58	0	46	
中国しゃくなげ会	1985	34	81	95	107	98	
近畿しゃくなげ会	1996	22	48	61	32	84	
北部九州しゃくなげ会	1983	35	93	77	80	49	2ポイント
宮崎しゃくなげ会	1977	41	103	111	112	93	
鹿児島しゃくなげ会	1977	41					
ゼノアック エクステンションセミナー	2003	16	30	30	30	30	

ゼノアックエクステンションセミナー

しゃくなげ会が座学中心の研修会であるのに対し、本セミナーは「実習」が主体です。前身は「全国しゃくなげ会」で、1968 年から毎年本社で開催され、全国から約 100 名の産業動物臨床獣医師が参加していました。その後高度化した本格的な実習とするため、2003 年に名称を「ゼノアックエクステンションセミナー」と改め、最新の実習施設・機器を保有する獣医系大学と連携し開催するようになりました。実習をより実りあるものとするため参加者数もそれまでの半分以下に絞り、若手・中堅獣医師を対象とした 2 日間にわたる集中セミナーとしました。これまでに酪農学園大学、岩手大学と連携し、輸液、蹄病、ダウナー症候群、繁殖などをテーマとして開催しています。地区しゃくなげ会同様にアンケートを実施し、運営の改善に役立てています。

セミナーにおける実習風景

日本の畜産を応援するWEBマガジン「どっこいしょニッポン」

「どっこいしょニッポン」は、食の安心･安全を追求する国産畜産物の消費を促し、同時に今畜産業界が抱えている高齢化や後継者問題などの課題について向き合い、さらには畜産業のイメージアップと興味･関心を広げることを目指した活動です。WEBサイトを2016年4月に立ち上げ、一般消費者の皆様に日本の畜産の魅力を伝えるとともに、畜産関係者と消費者との双方向コミュニケーションの場となることを目指し情報の配信を行っています。サイトでは「はたらく」「たべる」「くらす」「つながる」の4つの切り口のコンテンツを配信し、サイトを訪れたそれぞれの皆様がそれぞれの視点から考え、理解して頂けることを願っています。

どっこいしょ
ニッポン

はたらく
チクサンに関わる仕事について紹介する「働」

たべる
チクサン物をより美味しく消費するための「食」

くらす
チクサンに関わる人の暮らしを紹介する「暮」

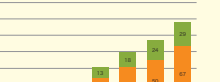
つながる
チクサンに関わる人の社会的活動を紹介する「つながる」

■どっこいしょニッポン　http://dokkoisyo.jp/

■SNS公式アカウント
【Twitter】
https://twitter.com/dokkoisyonippon
【Instagram】
http://instagram.com/dokkoisyo_nippon
【Facebook】
https://www.facebook.com/dokkoisyo.web/

どっこいしょニッポン

SNS公式アカウント



中国における皮膚科専門医教育

ゼノアックはアジア獣医皮膚科専門医協会(=AiCVD) と協力し、北京、上海地区でアジア皮膚科専門医による卒後教育を実施しています。北京では 2014 年から、上海では 2016 年から、広州深セン地区では、2017 年から AiCVD セミナー実施し、皮膚科の専門知識の普及を行っています。2018 年からは、台湾でも同様の活動を AiCVD の協力を得ながら実施しています。

専門医を志す若手獣医師の留学支援

人体医療と同様、獣医療でも専門医教育の必要性が高まっています。2012 年に設立された日本獣医学専門医奨学金（JFVSS：Japanese Foundation for Veterinary Specialist Scholarship）に対し、ゼノアックはゴールドスポンサーとしてサポートを続けています。これは、獣医療先進機関である米国コロラド州立大学で、専門医教育を受けるための奨学金となります。

http://jfvss.jp/

家畜感染症発生時の支援

日本国内では、これまで畜産関連の感染症によって多大な被害が発生しています。ゼノアックでは感染地域に対し自治体や地元獣医師会を通じて、消毒薬などの無償提供を提携メーカーと協力して行っています。2004 年 3 月、九州一円に発生した鳥インフルエンザへの対応として、日本養鶏協会を通じて養鶏生産者に消毒剤の無償提供、2000 年 3 月に宮崎県で発生した口蹄疫では消毒剤の無償提供、2010 年 4 月の口蹄疫では社長を本部長とする緊急対策本部を設け、消毒剤や鎮静剤の無償提供のほか、社員有志からの募金を含む義援金の寄贈、終息宣言が出るまでの間の獣医師（社員）派遣、消毒剤等の優先的供給等を行いました。その後も伝染病の発生の都度、継続的に製品供給を行っています。

動物と飼い主に対して

セーブペットプロジェクト

ビジネスパートナーであるベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン（株）と共に、犬猫の殺処分問題に取り組む活動として、2010 年度より「セーブペットプロジェクト」を立ち上げ推進しています。この活動は、ノミ・マダニ駆除薬市場 No.1 ブランドであるフロントラインの売上の一部を寄付することからスタートし、現在ではネクスガード、ネクスガードスペクトラ、さらに犬フィラリア症予防薬カルドメックの売上の一部も寄付されるようになりました。これらは主に殺処分低減に向けた様々な啓発や保護動物の譲渡を行う団体への寄付（保護犬・猫の医療費）、マイクロチップの普及活動などに充てられています。

ノミダニフィラリア.com
犬の寄生虫ケア
猫の寄生虫ケア
セーブペットプロジェクトについて
SAVE PET PROJECT
https://n-d-f.com/spp/
https://twitter.com/savepetproject

身体障がい者補助犬の普及支援

ゼノアックは、身体障がい者補助犬（以下、補助犬）の普及活動を 2002 年から積極的に支援しています。特定非営利活動法人日本補助犬情報センターとの協力で、補助犬と障がい者の方の社会参加促進のため、様々な課題に優先順位をつけ、真に必要な支援を続けています。

最初は人材育成として、米国と国内での介助犬トレーナー研修に対し奨学金制度（ゼノアック・スカラーシップ）を創設して活動を支援しました。受講者の作業療法士・理学療法士は、現在この業界のリーダー的存在として活躍しています。世界初の補助犬学会として日本身体障害者補助犬学会が 2005 年に設立されましたが、ゼノアックはこの設立準備となる 2004 年の学術シンポジウムを強力に支援し学会設立に貢献しました。また（社福）日本介助犬協会と繁殖

●介助犬の出産と認定頭数

犬導入・飼育・繁殖に関わるプロジェクトを立ち上げ、2012 年度までの 8 年間に 67 頭の繁殖と 29 頭の介助犬認定に貢献し、2017 年に同協会から感謝状をいただきました。2014 年度以降は、補助犬の啓発・普及をさらに推し進めてゆくために、日本補助犬情報センターの「補助犬ユーザーへの情報提供と人材教育及び各種調査」に関わる運営資金をサポートしています。

これらのほか各種イベントでの補助犬デモンストレーションの協力、補助犬法の設立や改正に対する社員の署名、補助犬育成団体への製品供給、我が国初の本格的な介助犬総合訓練センター「シンシアの丘」への支援などを行う一方、補助犬ユーザー様を交えた社内セミナーを開催するなど社員の補助犬に対する理解とリテラシー向上にも努めています。

イベントでのデモンストレーション（UDフェア）

動物福祉団体に製品を寄付

フロントライン、カルドメック、ネクスガードなどの寄生虫駆除剤をはじめとした製品を、かかりつけの動物病院様を通じて動物飼育団体や補助犬飼育団体に寄付しています。

身近にある社会貢献活動

社員個人が気軽に出来る社会貢献として、使用済切手、リングプル、ペットボトルキャップ、ベルマークなどの収集や各拠点に設置している自動販売機での購入があり、これらを動物福祉団体に寄付する活動を行っています。寄付型自販機は 2015 年度から本社と小林工場で設置し、これらの売上金の 2～ 5%を（公社）アニマルドネーションとしっぽネットに、使用済み切手は（社）日本動物福祉協会に、そのほかは各種ボランティア団体にお届けしています。ちょっとした意識の持ち方が社会貢献への参画につながります。社員の家族にも協力を得ながら、これらの活動が継続されています。

Animal Donation
アニマルドネーションのラッピングがしてある自動販売機

動物への感謝の手紙コンテストと書籍出版

人と動物の共生を推進するために、動物への気持ちを手紙にする「動物への感謝の手紙コンテスト」を 2010 年から 5 回にわたって実施し、それらを出版物として発行しました。優秀作品を集めた「ありがとう 46 の物語」（2013 年）、「犬に贈るラブレター」（2014 年）、「ハートフルコミック　会えてよかった」（2015 年）、「実話コミック　愛しの冒険猫ミミ」（2016 年）の 4 冊をこれまで出版し、本の収益金の半分を東日本大震災の被災犬保護活動に役立てて頂きました。

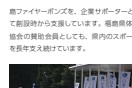
動物感謝の手紙より生まれた4冊の本

動物を守るさまざまな取り組み

「乳がんで苦しむ猫をゼロにする」。ゼノアックは JVCOG（一般社団法人日本獣医がん臨床研究グループ）が 2019 年から取り組んでいる、猫の乳がんを予防するための「キャットリボン運動」に協賛しています。また、天然記念物である沖縄のイリオモテヤマネコを守るために、医療施設に対して感染症予防ワクチンを無償提供しています。シカと列車がぶつかる鉄道事故を減らすことにも当社製品が貢献しています。「ユクル」はゼノアックが強みとする固形化技術を生かした野生のシカ向けの固形塩で、シカが好む鉄分などのミネラルを配合し、長期耐水性にも優れています。鉄分を摂取するために鉄道へ入りレールを舐めるシカに対し、シカが頻繁に出没する場所へユクルを設置すれば、シカはその場でユクルを舐め続け鉄道には近づかなくなります。日鐵住金建材が企画 / 発売し、ゼノアックが製造した誘鹿材「ユクル」は、「シカが求めるモノとヒトが求めるコト」を両立したデザインが評価され 2016 年度グッドデザイン賞と第 13 回エコプロダクツ大賞推進協議会会長賞（優秀賞）を受賞しています。

eco products awards 2016

GOOD DESIGN AWARD 2016



地域や社会に対して

献血活動

創業者の福井貞一は、福島県薬剤師会会長に就任した昭和 60 年、保健衛生団体や経済団体、各種ボランティア団体の協力を得、「福島県献血推進協力会」を設立、初代会長となり献血推進のＰＲや献血ネットワークづくり、郡山駅構内の献血ルーム開設※などの活動に尽力しました。そして社員は現在も、年 2 回の献血活動に参加しています。多年にわたる献血活動への積極的な参加に対し、2016 年に日本赤十字社より、最高章である「金色有功章」を頂きました。このような由緒ある章を受章できたことは大変な名誉であり、これからも人が支える命の尊さを大事にしていきたいと思います。

※現在はダイワロイネットホテル3階に移転

福島県経営品質研究会の創設

ゼノアックは日本経営品質賞の受賞を機に、会津若松経営品質協議会の会員企業や県中地区の有力組織とともに、2018 年 7 月、福島県経営品質研究会を立ち上げました。そして幹事組織として人材や施設を生かした運営を行っています。福島県内企業・組織の経営品質を高めること、そのために会員が協力して学び合い気づき合う場を提供することが目的で、そのことにより福島県の復興と事業開発向上に貢献したいと考えています。現在会員組織は 40 余りで、日本経営品質賞の受賞企業を招いた講演会を年に 2 回、そして経営品質の理解と実践のためのセミナーを、ベーシックとアドバンスの2つのコースを設け、それぞれ年に 4 回開催しています。組織の経営品質の向上は、従業員の働きがいの向上や組織にイノベーションを生み出す環境づくりなどに貢献します。地域の組織が協力し切磋琢磨してそれらの活動に取組むことで、地域の継続的な発展に寄与します。

「野口英世記念ふくしま国際音楽祭」など音楽へのスポンサーシップ

ゼノアックは「野口英世記念ふくしま国際音楽祭」に協賛しています。この音楽祭は、2012 年からに「野口英世記念ばんだい高原国際音楽祭」として始まり、東日本大震災の復興支援と福島県の一大特徴である高い音楽文化と地域観光の融合を図り、2018 年より現在の名称になりました。世界各国・日本全国から趣旨に賛同した一流の演奏者たちが集まり、素晴らしいハーモニーを奏でます。ゼノアックもその趣旨に賛同し、2018 年から特別協賛を行っています。また、福島県内や郡山市内の高校生による合唱や吹奏楽の定期演奏会やコンクール等に協賛し、高校生の音楽レベル向上と、"合唱王国ふくしま"、"楽都郡山" の音楽振興に貢献しています。

ZENOAQ
聴かせて♪ 未来へ
日本全薬工業株式会社

「ふくしま駅伝」などスポーツへのスポンサーシップ

「ふくしま駅伝（市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会）」は、福島県の中長距離選手の育成・強化と、各市町村のふるさと興しに寄与することを目的として 1989 年に始まりました。区間ごとに中学生、高校生、大学生・社会人が走り、市 / 町 / 村の各部門で順位を競います。ゼノアックは第1回大会から第6区中継地点「日本全薬工業前」における運営協力で大会を支えてきましたが、現在は協賛企業となり、会社構内の中継所では社員ボランティアが大会のお手伝いをしています。

このほか、バスケットボール国内リーグの福島ファイヤーボンズを、企業サポーターとして創設時から支援しています。福島県体育協会の賛助会員としても、県内のスポーツを長年支え続けています。

本社構内を走り抜けるふくしま駅伝の選手

TOPICS

地域感謝祭

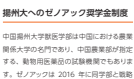
2018 年 10 月、郡山本社で地域住民の方々に感謝の気持ちを伝えるイベントを初めて開催し、約 400 名の来場がありました。全国のブランド牛肉（福島、飛騨、但馬、宮崎）と鹿児島黒豚、会津地鶏の食べ比べや、動物とのふれあい体験、会社見学ツアー、科学体験教室などを開催し、イベントを楽しんでいただくとともに当社の事業についてもご理解いただく貴重な機会となりました。

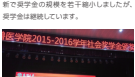
ゼノアック 地域感謝祭

●当社の事業内容のご理解度はいかがでしょうか？

●今回のイベントの満足度はいかがですか？

ご来場者様へのアンケートでは98%が満足、当社事業内容の理解度は66%がよく理解出来たと回答があり、少し理解出来たと合わせると96%でした。





児童、生徒、学生に対して

科学体験教室

研究開発本部では、社会貢献活動として地域の児童を対象とした科学体験教室を2014 年度から実施しています。この活動では、研究開発本部ならではの知識や技術を生かして、「科学体験学習を通して地元の子供たちに理科や動物に対する興味・関心を高めてもらう」、「近隣の学校と交流することにより、地域社会から信頼される企業を目指す」ことを大きな目的としています。子供たちが科学体験を「面白い！」と感じてくれること、そして身の回りの科学に興味をもって好きになってくれることを期待しています。地元のメディアでも取り上げられ、児童たちにとって貴重な体験になったとの評価を頂いています。

児童くらぶでの読み聞かせ活動

西日本コールセンターは 3 カ月毎に一度、近隣の小学校で「児童くらぶでの読み聞かせ」を行っています。本を読んで子供たちに聞いてもらうほか、紙芝居も行います。子供たちの評判はとても良く、好評なことから継続されています。この活動からは、お客様応対での発声、表現方法の学習、話の間を磨く練習としても多くの学びが実感できました。地域貢献活動が自分自身のスキルアップにもつながるので、とてもやりがいの持てる活動になっています。

インターンシップと職場体験

学生の就業意識の向上を目的として、外部団体が主催する高校生対象のインターンシップへの参画や、就職を控えた大学生のためのインターンシップを行なっています。動物用医薬品製造に関わる企業として、獣医師や薬剤師を目指す学生に対して専用のインターンシップも行い、業界の特徴や企業で求められること、社会での役割などを、先輩社員とのグループディスカッションなどを通じて伝えています。また研究開発から製品流通まで、学生の要望に応じて幅広い職場経験を提供したり、会社見学の受け入れも随時行ったりしています。

揚州大へのゼノアック奨学金制度

中国揚州大学獣医学部は中国における農業関係大学の名門であり、中国農業部が指定する、動物用医薬品の試験機関でもあります。ゼノアックは 2016 年に同学部と戦略的提携関係を締結し、あわせてゼノアック奨学金を設置しました。計 3 年、各年計 5.5 万元 (100 万円弱) の給付を 2016 年から行っています。(学部生 15 名、修士課程 10 名、博士課程 5 名)。2019 年に契約更新で奨学金の規模を若干縮小しましたが、奨学金は継続しています。

医学院2015-2016学年社会奖学金颁奖
全药奖学金

TOPICS

安積第三小学校から土地の寄付に感謝状

2019 年 11 月、郡山市立安積第三小学校の創立 40 周年式典が開催され、小学校用地の寄付に対し当社会長の福井邦顕が感謝状をいただきました。1978 年、郡山市は当社の所有する土地を買収したいと求めましたが、創業者の福井貞一はその希望するすべての土地（4 千坪：12,934 ㎡）を寄付しました。式典では子どもたちによる学校創設までの劇が発表され、当社の創業者も登場して会場を沸かせました。正面玄関前の花壇には顕彰碑も建立されました。

自然災害への被災地支援

東日本大震災の復興支援

ゼノアックは東日本大震災発生直後、動物救護活動等の推進確保と当該被災地での獣医医療提供のための支援として、日本獣医師会と福島県に対してそれぞれ義援金を提供致しました。またゼノアックがベーリンガーインゲルハイムアニマルヘルスジャパン（当時：メリアルジャパン）と共同で行っている「セーブペットプロジェクト」への寄付金の一部を、NPO 法人「ワンワンパーティクラブ」を通じ、震災で被災されたペットを持つ方々の支援にあてました。その後ゼノアックは、震災と原発事故で置き去りにされた犬や猫を保護する三春シェルター※へも、義援金の寄付や製品の提供、社員ボランティアなどによってサポートを行ってきました。2012 年には、譲渡犬・譲渡猫のマッチングやチャリティーオークションなどによるイベント、「被災した動物たちに愛の手を Smile Again ～かけがえのない家族～」を福島民報社と共催し、動物たちの保護のために、およそ 600 名の来場者によるご協力を頂きました。

福島原発事故による避難指示区域 12 市町村の商工業や農業再開を後押しする「福島相双復興官民合同チーム」が 2015 年に発足しました。既に避難指示が解除された地域でも、住民の方々の生活や産業の復興はこれからが始まりで、さらに居住制限区域や帰還困難区域についてはより長期的な対策が必要です。ゼノアック会長の福井邦顕はこの官民合同チームのチーム長、そしてのちの（公社）福島相双復興推進機構理事長に就任し、きめ細かい支援の実施に取り組んでいます。

※福島県動物救護本部による動物シェルターは 2015 年 12 月 25 日まで運営され、動物を殺処分することなく、すべての動物の譲渡が完了しその役割を終えました。

Smile Again
チャリティーオークション
収益金

2012年のチャリティイベント

（公社）福島相双復興推進機構理事長として活動

近年の各地の自然災害に対する支援

ゼノアックは全国に販売拠点を有し、それぞれが地元社会とのつながりを大切にしています。広範囲な自然災害の発生に対してはそれぞれの自治体や獣医師会を通じて支援を行っています。2016 年の熊本地震、2017 年の北部九州豪雨への支援をはじめ、2018 年の西日本豪雨では、福島民報教育福祉事業団を通じ日本赤十字社へ 100 万円を寄付、2019 年の台風 19 号では福島県内の各自治体に対し消毒用の消石灰とマスクなどの支援物資を提供しました。

西日本豪雨災害の被災地への支援

TOPICS

アジア初、HealthforAnimalsのコーポレートメンバーに

2019 年 3 月、ゼノアックは HealthforAnimals（ヘルスフォーアニマルズ）のコーポレートメンバーになりました。日本では（公社）日本動物用医薬品協会がメンバーとなっていますが、日本を含むアジアのコーポレートメンバーとしては当社が初めての選任です。同団体は、開発国と開発途上国におけるアニマルヘルス企業と各国のアニマルヘルス協会の代表によって構成されている非営利・非政府組織で、「動物を疾病から守ることで人を疾病から守る」という価値を社会に提供します。抗生剤の薬剤耐性菌や新型コロナウイルスなど健康に関する問題、動物福祉、環境問題など、さまざまなサステナビリティへの取り組みを行っています。世界のアニマルヘルス発展のため、当社は重責を全うしてゆきます。

https://healthforanimals.org/

組織統治

経営幹部のリーダーシップとは、『ゼノアックが目指す「ゼノアック独自のコア・コンピタンス経営※を基盤とした理想的な姿」を実現するための経営課題を実行し、目標達成に導く各プロセスにおいて発揮されるリーダーシップ』を指します。経営幹部は、社員とのコミュニケーションを重視し、価値観の共有と理解を深めることにより、社員が自ら考え行動できるような環境を創り、独自性や独創性を育む組織・体制の整備を積極的に行うことが重要と考えています。

※コア・コンピタンスとは、「ユニークなスキルやノウハウを創造し組み合わせ、ユニークなシステムや手法に仕上げた知的財産を、ゼノアックの企業力を発揮し成果につなげること」と定義しています。コア・コンピタンス経営とは、このコア・コンピタンスを確立し、それをもとにゼノアックのビジョンの実現を図る経営を意味します。

8 働きがいも 経済成長も
9 産業と技術革新の 基盤をつくろう
16 平和と公正を すべての人に
17 パートナーシップで 目標を達成しよう

コーポレートガバナンス

定例のガバナンス

ゼノアックの役員は 14 名で構成され、月に二回開催される役員会で重要事項を決定しています。また、部長 (取締役、執行役員) による PCM 会議は、毎月第一営業日に開催され、部署間の課題解決や連携について検討を行い、実務が伴う課題や継続審議事項などについては小部会を設けて対応しています。

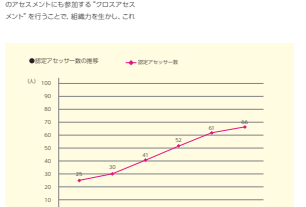
方針の伝達

年度ごとの経営方針は、3 月に開催する拡大経営会議をはじめ、4 月に本社と全国地区ブロックで実施する方針説明会で、社長が全社員に直接伝えています。各本部長は本部方針説明会で、経営方針に基づく本部方針を部署メンバーに直接説明しています。月初めに行う全体朝礼は、全国をオンラインで結び、社長が自らの考え方や方針を直接社員に伝える場となっています。この映像はアーカイブされ、いつでもイントラネットで視聴することが可能です。また経営方針は、昭和 40 年から続く社内報 (現オクルス」) に掲載するなど、あらゆる機会を通じて、あるべき姿や経営方針、価値観の共有を図っています。

CSRの考え方

CSRと委員会の活動領域

ゼノアックには7つの委員会があり、一般的な CSR の概念においてはこの7委員会の活動すべてによって CSR を推進しています。CSR 委員会は全般的なコンプライアンス向上と社会貢献の活動、CS 委員会はお客様満足度向上のための活動、ES 委員会は社員満足度向上のための活動、RA 委員会は危機管理の活動、省エネルギー委員会は省エネルギー推進の活動、安全衛生委員会は社員の安全衛生に関する活動、薬事コンプライアンス委員会は薬事の法令遵守に関する活動を行っています。各委員会は定例会議のほか、独自に課題の抽出と適切な対策を推進し、振り返りと次のアクションの策定につなげています。



ゼノアックCSR基本方針

ゼノアックは、経営理念の実現に向けて「コンプライアンス行動規準」で定めた基本姿勢※のもと、動物用医薬品企業としての社会的責任を果たすとともに、社会の一員として信頼と共感をいただけるよう積極的に社会貢献活動に取り組みます。

※ 1. 事業に関わる法令および企業倫理の遵守
　2. 社会的に有用な製品・サービスの提供と安全性の確保
　3. 動物の価値、人間と動物との共生

コンプライアンス行動規準

2004年、危機管理（RA）委員会はコンプライアンスの推進のためのスタンダード（行動憲章）と組織作りに着手し、2005年4月に「ゼノアック・コンプライアンス行動規準」を作成し、コンプライアンス推進委員会（のちのCSR委員会）を発足させました。行動規準はハンドブックとして全社員に配布し、新入社員研修を始め、各部署で実施するコンプライアンス教育やイントラネットで展開するなど、さまざまな機会を通じてその内容や考え方への理解を深めています。

ZENOAQ
ゼノアック
コンプライアンスハンドブック

経営品質向上（MQ）活動

ゼノアックは、その社会的使命やビジョンの実現のため、2008年度より経営品質向上活動（MQ※プロジェクト）を開始しました。すべての業務プロセスの改善・革新とその振り返りを行い、PDCAサイクルを回してゆく取り組みです。この活動は日本生産性本部の経営品質協議会が推進するもので、基本理念（顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和）に基づいて行われます。

当社のプロジェクトは発足当初、部長以上と指名者の50名を越える大規模なメンバーで構成され、毎月開催される会議で事例の共有や課題の進捗確認、理念の共有、研究等を行いました。そして自ら振り返りを行うセルフアセスメント、もしくは外部（専門家）によるアセスメントを毎年定期的に実施し、評価と課題の抽出、施策の策定と実行を継続してきました。それらの成果により、2012年度には「日本経営品質賞経営革新推進賞」、2016年度には目標としていた「日本経営品質賞（大企業部門）」を受賞しました。北海道・東北の民間企業で初、動物薬・ペット・畜産業界でも初の受賞となりました。

ゼノアックの活動の特徴は、50名を越える認定セルフアセッサーを擁し活動の原動力としていること、部署別のほか拠点別でもセルフアセスメントを毎年行っていること、セルフアセッサーは自部署のみならず他部署のアセスメントにも参加する“クロスアセスメント”を行うことで、組織力を生かし、これを更に高めていることです。セルフアセスメントは全従業員が参加しますので、現場レベルで経営品質への意識を高めることにつながっています。

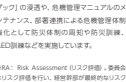
日本経営品質賞の受賞企業となったのちは、さまざまな組織からのベンチマーキングの受入や役員による講演活動などを行っていますが、地元福島の発展と復興に貢献すべく、幹事組織とともに「福島県経営品質研究会」を2018年に立ち上げ、活動を開始しました。（P31「社会貢献」参照）

※MQ：Management Quality（経営品質）

アセッサーミーティングの様子

部署別セルフアセスメントの様子

●認定アセッサー数の推移



チェック＆レビュー

日々の業務に関し、上司との対話による点検や検証、アドバイスが規定の書式（チェック&レビューシート）を用いて行われています。この仕組みを「チェック&レビュー（C&R）」と呼んでいます。書式を用いるほか、週次・月次のミーティングによってもC&Rが実施されています。C&Rは役員内、本部・部署・チーム内の全階層、全メンバーで行われており、PDCAサイクルをスパイラルアップするプロセスの一翼を担っています。振り返りやチェックを行う仕組みはほかにもありますが、これは特にショートインターバル・コントロール※の役割を果たしています。

※短い時間で区切り、チェックを入れること。理想（目標）と現実とのズレを修正してゆく際、短期間内であればわずかな修正で済むため、これを繰り返すことで目標達成をより容易に、確実にしようとする方法。

車座対話

経営幹部が5～7人の社員（嘱託、パート含む）と車座になり、時には飲食をともにしながら自由に対話をします。社長、副社長、専務は部署横断的なメンバーと、部署担当役員はそれぞれの部署のメンバーと定期的に開催し、役員による車座対話の参加者は年間のべ2千人を越えます。テーマは経営品質の4つの考え方をベースにそれぞれが工夫をし、社員は忌憚のない意見を述べ、経営幹部は社員に直接語りかけることで、お互いの理解が深まります。これは社員満足につながるだけでなく、意見は経営にも反映されます。それゆえ車座対話は、最も重要な経営施策の一つに位置づけられています。

●車座対話に関する結果の推移

※2019年度はこれまでの集計とは異なるやり方で、役員がそれぞれの車座対話を実施しています。

リスクマネジメント

ゼノアックはリスクについて、通常業務において発生する「ビジネスリスク」と、災害や事件・事故等による「突発的なリスク」そして「コンプライアンス上のリスク」の3つに分類し、マネジメントを行っています。
ビジネスリスクについては、各部署が事業計画（中期計画や年度計画）においてそれらを管理します。年度計画においては、さらに各部署の各施策別に想定されるリスクを抽出し、その対応策を事前に策定します。これらは部署別で事業計画全体についてのヒアリングを受け、最終的に役員会の承認を経て実行・管理されます。
突発的なリスクについてはRA(危機管理）委員会が担当します。事業継続計画（BCP）や危機管理マニュアルの策定・改訂をはじめ、危機に備えるための様々な準備や啓発活動をRA委員会が行っています。全社的な危機に発展する可能性のある事案が発生した際には、社長をトップとする「緊急対策本部」が設置され、対応を行います。コンプライアンスの欠如によって発生するリスクについては、CSR委員会によるアセスメントと予防（教育・啓発）が行われています。

●リスク分類別の対応と組織

リスク分類	ビジネスリスク	突発性リスク	コンプライアンスリスク
リスク分類の例	・販売不振 ・売掛滞留金の増加 ・不良品・副作用の発生 ・伝染病（家畜）の発生 ・為替変動 ・顧客/提携先の倒産、M&Aなど	・自然災害（地震、風水害等） ・交通事故 ・風評被害 ・伝染病（家畜・ヒト）の発生 ・不良品・副作用の深刻化 ・テロ、殺人、誘拐など	・薬事関連法違反 ・不正取引 ・個人情報漏洩 ・ハラスメント ・長時間労働 ・環境汚染、など
主担当組織	各部署、各本部	危機管理委員会	CSR委員会
予防対策	リスク想定と事前対応（事業計画書）	・危機管理マニュアル ・事業継続計画（BCP） ・交通安全教育 ・自社・他社の危機事例の共有	・コンプライアンス教育 ・コンプライアンス啓発活動
発生時対応組織	・担当部署 ・ビジネスパートナー ・経営幹部	・総務チーム ・危機管理委員会 ・緊急対策本部	・発生部署、担当部署 ・危機管理委員会 ・経営幹部

危機管理（RA）委員会

RA委員会は2002年3月に設立され、自然災害や伝染病、事故、事件などについて発生時対策と平時のコントロール（チェック、予防、準備、啓発、訓練等）を行っており、これまで各種の危機管理マニュアルと事業継続計画（BCP）の作成・改訂を行っています。危機発生時には緊急対策本部を立ち上げ、経営幹部をサポートします。実務においては総務チームと連携を取り、各拠点の「防災ガイドブック」の浸透や、危機管理マニュアルのメンテナンス、部署連携による危機管理体制強化として防災体制の周知や防災訓練、AED訓練などを実施しています。

※RA：Risk Assessment（リスク評価）。委員会はリスク評価を行い、経営幹部が最終的なリスクマネジメントを行う。

AED講習の様子

事業継続計画（BCP）

ゼノアックは東日本大震災を機に、大規模地震など事業継続に大きく影響する災害が発生した際に、被害を最小限にして早期の事業復興を図るためのBCPを、RA委員会が中心となって策定しました。

BCPでは、継続すべき最重要業務を「お客様からの受注および発送」と「指定重要製品の生産」の2つと定義し、すべての経営資源を当該業務の遂行に優先的に用いるとしています。BCP発動の判断は、被害規模が両業務それぞれで定めた目標復旧時間（RTO)を越えると想定された場合としています。

BCPでは、発動下の緊急対策本部と各部署の役割・メンバー・資源を明記し、組織的な活動が迅速に開始できるようにしています。最重要業務については、復旧手順や復旧に必要な経営資源を明記し、復旧に集中できるよう準備を整えています。一方で、すべてをマニュアル化することは実践的でないことから、災害発生時の基本方針を定め、方針に沿った形での現場の機敏な判断を生かすようにしています。また、法令上、被害報告が義務づけられている物質（微生物、毒劇物、向精神薬等）を保有していることから、それぞれを管轄する行政への対応までを明記しています。

BCPは本文のほか、部署別の課題と対応策をまとめた「リスク事前対策表」や連絡先リスト、被害状況チェックシートなども整備し、定期的なレビューで改定を行っています。また販売拠点ごとにリスクを洗い出し、それらをまとめた「防災ガイドブック」をそれぞれ作成し、イントラネットで共有しています。

TOPICS

経営品質向上活動をはじめとした取り組みや業績が評価され、近年さまざまな賞や認定をいただいています。その主なものをご紹介します。

2017年度ふくしま産業賞（県知事賞）受賞

「ふくしま経済・産業・ものづくり賞（通称:ふくしま産業賞)」は、福島県内で「独自の光る技術」を持つ企業や「伝統を守り地域性豊かなものづくり」を続ける人材に社会的な評価を与え、県内の企業活動・ものづくりを応援し、人材育成等を通して経済の活性化を図るもので、当社は世界初の犬アトピー性皮膚炎減感作療法薬「アレルミューンHDM」や、「鉱塩」「セルパンカー」などのベストセラーをはじめとした製品開発や、経営革新、ワークライフバランス・職場環境、社会貢献などが高く評価され、最高賞の県知事賞をいただきました。

3回
ふくしま産業賞 表
ふくしま経済・産業・ものづくり賞

地域未来牽引企業への認定

経済産業省は「地域未来投資促進法」による関連施策として、今後の地域経済を牽引することが期待される魅力ある企業を「地域未来牽引企業」として選定しており、その一社としてゼノアックが 2017 年に選ばれました。これからも新製品開発、設備投資、雇用、地域連携など様々な面で地域を牽引する事業を行ってゆきます。

地域未来牽引企業

東北・新潟のキラ☆企業への選定

「キラ☆(ぼし）企業」は、事業の特徴、成長性・将来性、地域への貢献度など多面的な評価によって選定された東北6県と新潟県を代表する優良企業です。この取り組みは、公益財団法人東北活性化センターが一般社団法人東北経済連合会と連携して進めているものです。「ここで働きたい」とこれからも思っていただけるよう魅力ある組織づくりに努めてゆきます。

ここで働きたい！東北・新潟のキラ☆企業

日本全薬工業株式会社
www.zenyaku.jp